

## 平成28年度 学校評価実施報告書

学校番号 定14

学校名 千葉県立長生高等学校

課程名 定時制

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえ課題・改善の方向)
学 校 経 営	<p>① 生徒に関する情報交換会は、定期的を実施し生徒理解に努めている。これまで4回実施している。なお、生徒の情報交換は必要があるたび、随時行っており、特別支援教育推進委員会での情報交換も実施している。 退学率は4.7% (昨年同時期10.1%), 出席率は91.2% (昨年同時期85.8%)。</p> <p>② 3月中に1年生出身中学5中学校を訪問し、新入生の状況把握をした。また、10月に不登校サポートセミナー(茂原市中央公民館)に出席し学校説明及び進学相談を実施した。 授業公開週間の参加者は茂原中教員3名を含め、8名であった。その後の学校説明会も随時行っており10名程度の訪問者がいた。</p> <p>③ <u>ホームページ内容を定期的に更新した。今年度は15回程度と昨年度と比較して少なかった。</u>内容は入学者選抜, 学校説明会, 学校行事等に関することを掲載した。</p> <p>④ 交通安全や自然災害時の安全教育及び健康教育を実施し, 警察署や保健所による研修会や校内職員による講話・実践的避難訓練を実施した。</p>	<p>① 情報交換会は次年度も定期的を実施する。スクールカウンセラーや子どもと親のサポートセンターとの連携を一層深め, 生徒一人一人に対する理解を深め, 支援策を講じ職員間で共有し実施していく。</p> <p>② 中学校と生徒の情報を共有することで生徒の指導に役立てていく。新入生の状況を速やかに把握するとともに, その後の状況を伝える機会を設けていく。 授業公開や学校説明会, 随時の授業参観を今後も継続して実施し, 生徒・保護者, 受検希望者の学校に対する理解を促進していく。</p> <p>③ 学校の行事や生徒の活動状況等をホームページで年に20回(月に2回程度)を目安に更新する。また, PTA総会や保護者面談の際に更新状況を伝える。</p> <p>④ 体験型の研修会をこれまで以上に増やし, 生徒の安全意識をこれまで以上に高めて行く。</p>
学 習 活 動	<p>① 生徒・保護者へのアンケートを12月に実施し, 授業改善に努めている。学校評価アンケートの中での「学習の基礎・基本が身に付けられるような指導」では, <u>生徒の評価が87%から77%へと下降した。</u></p> <p>② 授業練磨の公開日と共に授業公開週間を実施し, 8名の外部の方及び相互の授業参観を行ない, 意見交換を行った。教職員の研修として研究授業を実施し, 教員が相互に参観し, 授業力向上を図っている。</p> <p>③ 商業科目における検定合格者は, 2学期末現在, 文書処理では2級4名を含め延べ10名, 簿記実務検定では3級が1名である。</p>	<p>① 学習の基礎・基礎を身に付け, その成果が自信に繋がるような指導方法をより一層工夫・改善していく。授業評価のアンケートを実施し, 生徒の状況をより細かく把握し, 授業改善の資料として活用していく。アクティブラーニングの実践研究を校内全体で進めていく。</p> <p>② 授業参観の際のアンケート用紙を作成し, 記録に残し参考にできるようにする。生徒の出身中学校に積極的に呼びかけを行って行く。</p> <p>③ 授業やそれ以外の機会に資格についての重要性を生徒に認識させ, 受検者・合格者を増やしていく。</p>

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえ課題・改善の方向)
生徒指導	<p>① 毎日の登下校時に生徒指導主事等の教員が立ち、挨拶を励行し、生徒の状況把握に努めている。昇降口及び職員室で遅刻指導を実施し、基本的生活習慣の確立に努めている。</p> <p>② 6月を中心として、面談週間を実施し、不登校生徒を除き1学期中には面談を終了できた。不登校生徒については、電話連絡以外に家庭訪問も実施した。 職員が生徒の情報を共有し、生徒理解に努めている。</p> <p>③ 1学期中にスクールカウンセラーが1年生全員個人面談を実施し、その結果を基に教職員間での情報交換をして生徒理解を深めた。同時に生徒に対して教育相談について理解を深めさせた。</p>	<p>① 一人ひとりの生徒理解の上に、個に応じた指導を実施していく。そのために、生徒とのコミュニケーションをより一層心がけ、信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携した指導を実施していく。</p> <p>② 保護者との面談は生徒理解に直結するため、必ず実施する。生徒の状況によっては家庭訪問も積極的に実施していく。</p> <p>③ 次年度はスクールカウンセラーと1年生だけではなく全生徒との面談を実施し、生徒のカウンセリングが「心の居場所」となるようにする。</p>
キャリア教育	<p>① 総合的な学習の時間を利用して、進路に関する講演会やマナー教室等を企画し、実施した。専門学校等の協力を得た志望別の進路学習は6月と2月に実施し、マナー教室を11月に実施した。そのほか本校職員が、<u>各学年4回の「教育プログラム」を実施して、生徒の基本的スキルの構築を目指した。</u></p> <p>② 特別支援教育を通じて、中核地域生活支援センター等の外部機関と連携して「就業体験」を実施し、また今後実施予定の生徒もいる。</p> <p>③ <u>校内の教諭による、進学・就職のための補習が延べ20回程度行われた。</u></p> <p>④ 本校OBによる講演会（「天夢塾」）を同窓会の協力のもとに実施した。</p>	<p>① 学校卒業後の進路選択を見据えた進路指導を充実させ、卒業後の進路未決定者を極力少なくしていく。 子どもと親のサポートセンターの指導のもと、新しい「教育プログラム」を実施し、ソーシャルスキルトレーニング等を実施していく。</p> <p>② 就業体験によって、社会との関わりを経験させ、高校卒業後の進路実現に向けての指導を充実させていく。</p> <p>③ 進学・就職のための補習は個別指導になることが多いが効果も高い。生徒の状況に応じた指導を今後も継続して実施する。</p> <p>④ 今後も継続して実施する。</p>
特別支援教育	<p>① 合理的な配慮の提供について年度当初に文書を配布。県の「いじめ問題対策支援チーム」に年2回訪問してもらい、生徒を観察後、指導・支援のための助言をいただき今後の指導に役立てることができた。</p> <p>② 特別支援教育連絡会議は学期毎に実施した。生徒情報交換会での情報と重複することが多いため、原則として学期1度の開催としている。</p> <p>③ 学習面での支援が必要な生徒に対し、NPO法人「ナルク」と連携した特別補習を実施し、<u>年度末までに25回程度実施</u>する。</p>	<p>① 職員全体での生徒理解をより一層深め、生徒に寄り添った指導を全体で継続して行っていく。県の「いじめ問題対策支援チーム」を今後も有効に活用していく。</p> <p>② 特別支援教育連絡会議については、今年度同様に実施していく。</p> <p>③ 次年度についても実施し、生徒の状況を見極めながら補習を継続して行く。通級指導に関して外部機関との連携により研究を進める。</p>